

「加害者は自分かも？ 歩行と自転車利用の心得」

交通安全教育は各小学校で取り組まれています。自分の身は自分で守るための知識と技能を身につけることが重要であるため、交通事故に遭わないための学習は欠かせません。しかし、それだけでいいのでしょうか。交通事故を減少させるための教育的アプローチとして、違う視点からの交通安全教育を提案します。

児童が巻き込まれる交通事故は後を絶ちません。交通事故には、その事故を引き起こす加害者が存在しています。歩行時や自転車利用時に、他者に怪我をさせたり、迷惑をかけたりするということを考えると、児童自身も加害者に成り得るのではないのでしょうか。そのことを児童自身も理解しておくことが重要なのではないかという視点に立ち、本教材を作成しました。

本教材を通して、車やバイクに乗っていない児童でも、交通社会においては、加害者に成り得るということを児童自身が理解した上で、自分自身の行動を見直し、そして、自分が実行できる対策を講じるきっかけにいただければと考えています。加害行為は、自分本位の考え方や自分本位の行動から起こっていることが多いのではないのでしょうか。交通社会における他者本位の考え方を子どもの頃に学んでおくことが、安心して安全な交通社会の構築に繋がるものと信じています。

本教材は、小学生を対象とした教材です。低学年用「歩行中に加害者にならないために」、中学年用「自転車で加害者にならないために」、高学年用「歩きスマホで加害者にならないために」の3つの内容を作成しました。それぞれの内容に応じた授業用パワーポイントを作成しています。また、指導者が授業を進めやすいように、学習指導案付きの指導者用マニュアルも作成しています。是非、指導者用マニュアルを活用していただき、多くの先生方に授業を実践していただければと思います。

最後になりましたが、本教材の作成にあたり、研究助成をしていただきました三井住友海上福祉財団に心より感謝申し上げます。

2025 年 2 月

園田学園女子大学 山崎雅史

歩行中に加害者にならないために

1. 対象 低学年

2. 教材化の視点

歩行中の事故の多くは、自動車と歩行者による事故、もしくは自転車と歩行者による事故です。多くの場合、自動車や自転車の運転手の責任が重くなっているようです。では、歩行者と歩行者による事故ではどうでしょうか。お互いに乗り物に乗っていません。その場合、歩行時の状況、被害者の年齢、事故現場等により責任の重さが決められるようです。要するに乗り物に乗っていない小学校低学年でも加害者に成り得るということです。例えば、友だちとの会話に夢中になり、前を見ずに歩いていて高齢者とぶつかり転倒させた場合、急いで歩道を走っているときに他者の荷物にぶつかり荷物を破損させた場合、持っている傘の先が幼児の顔にあたり負傷させた場合などがあるでしょう。これらは登下校中でも起こりうることです。歩行者は加害者にはならない、ではなく、自分も加害者に成り得るということを低学年のうちから考えさせましょう。

3. 教科と指導要領との関連

【教科】生活

内容(1) 学校生活に関わる活動を通して、(中略) 安全な登下校をしたりしようとする。

4. 安全教育のねらい

- 歩行者も加害者に成り得ることを理解し、安全な歩行ができるようになる。

5. 安全教育の視点

① 加害者にならないための行動

- ・ 交通安全の基本となる「前を見る」ことの重要性を確認するとともに、特に幼児や高齢者が前方にいる場合の行動の仕方を考える。

② 自分の行動の振り返り(自分事とする)

- ・ 知識を得るだけではなく、自身の行動を動画で撮影するなどして客観的に振り返る。

③ これからの行動の意思決定

- ・ 振り返った自分の行動を踏まえ、自分の行動目標を設定し、その後の自身の行動を評価する。

6. 関連情報

登校中の子どもと対面歩行してきた高齢者が衝突し、高齢者が転倒、骨折の傷害を負ったという事案が発生しています。また、駅の階段を下りていた女性が、駆け下りる子どもに衝突されて転落し、骨折等の傷害を負ったという事案も発生しています。

7. 学習の流れ

	学習活動・児童の反応例	指導上の留意点
導入	1. 登下校中に気をつけていることを思い出す。 ・車にひかれないように周りをよく見えています。 ・信号を守るようにしています。 ・前から来た人とぶつからないように道を譲ります。 2. 本時のめあてを確認する。	・自身が事故に遭わないためにとっている行動だけではなく、周りの人に迷惑をかけていないかという視点でも考えさせる。
	人にけがをさせないための歩き方を考えよう	
展開	3. 登下校中に友だち以外の人にけがをさせる場面を想起する。 ・歩道を歩いていて、すれ違う時にぶつかって転倒させてしまうかもしれません。 ・急いで階段を降りているときに、前の人にぶつかって、階段から転落させてしまうかもしれません。 ・前を見ずに傘をさして、歩いてすれ違う時に、傘の先が相手の目に入ってしまうかもしれません。 4. 想起した場面を回避するための行動を考える。 ・前から来る人の様子を確認する。 ・友だちとの話に夢中にならず、前を見て歩く。 ・周りの人に迷惑をかけないように行動する。 5. 自身の行動を振り返り、想起した場面の発生可能性と理由を考える。 ・急いでいるときはどうしても走ってしまうので、前から来る人とぶつかってしまうかもしれません。 ・私はいつもゆっくり行動しているので、誰かとぶつかることはありません。でも、持っている傘とかをぶつけてしまうことはあるかもしれません。	・登下校中の友だちとのトラブルについて取り上げるのではなく、他の歩行者に衝突したり、物をぶついたりする場面を考えさせる。 ・傘はさしているときだけではなく、持っているときも危険であることに気づかせる。 ・自分のやりたいことを優先し、前方を確認できていないことにより発生していることが多いことに気づかせる。 ・行動には理由や背景、また個人の特性が関与していることから、一般的な考えではなく、自分自身のこととして具体的に考えさせる。
まとめ	6. 人にけがをさせないために、今日から実行する行動を考える。 ・前から来る人とすれ違いやすくするために、いつも道の端を歩く。 ・持っているものを振り回さないようにする。	・無理な意思決定をさせるのではなく、自分ができる行動を考えさせる。 ・決めたことを記述させ、自分が決めた行動を強く意識づけさせる。

8. 事後の学習

自分にできる行動を考えて授業は終わりますが、大事ななのは、本当にその行動をとれているかです。授業の翌日や2,3日経ってから、自分の行動を自己評価させます。

あんなにあるき方

今日、学校に来るとき、
何に気をつけて
歩いていましたか？



「みなさんは、今日家を出発してから学校に来るまでの間、何に気をつけて歩いていましたか？」

考えてみましょう。

- ・車にひかれないようにしました。
- ・信号を守って歩きました。
- ・遅刻しないか時間を気にしていました。

「事故に遭わないことはとても大切です。」

「自分が事故を起こすことは少ないかもしれませんが、他の人に迷惑をかけることはありそうですよ。」

(クリック)

○人にけがをさせないための
歩き方をかんがえる

○自分にできることを
見つける



「そこで、今日は、事故に遭わないために、ではなく、自分が人にけがをさせたり、迷惑をかけないための歩き方を考えましょう。」
「そして、そのために、自分はどうするのか、自分にできることを考えてもらいます。」

(クリック)

とうげこう中、
友だち いがいの人に
けがをさせるとしたら、
どんなとき？

「はじめに、今日の登校の様子を思い出してもらいました。」

「自分が誰かにけがをさせてしまうかもしれません。」

「登下校中に、友だち以外の人にけがをさせるとしたらどのような場面でしょうか。」

- ・歩道を歩いているときにぶつかる。
- ・急いで階段を降りているときにぶつかる。
- ・さしている傘の先が前から来た人に刺さってしまう。

(クリック)



「いろいろとありそうですね。」

(クリック)

イラスト1

「このイラストは友だち同士かもしれませんが、このようなことは友だち以外でもありそうですね？」

「前から来た人やお店から出てきた人にぶつかって、転倒させてしまうかもしれません。」

(クリック)

イラスト2

「このイラストで、友だち以外の人に迷惑をかけることはありますか。」

「給食袋など、自分の持っているものを振り回しながら歩いていると、それがぶつかってしまうかもしれませんね。」

「中に硬い物が入っている場合には、大けがになるかもしれませんよ。」

(クリック)



イラスト3

「このイラストの人は少し年齢が上のように見えますが、みなさんでもこのようなことはありませんよね。」

「このイラストで、友だち以外の人に迷惑をかけることはありますか。」

「傘はさしているときだけではなくて、持ち歩いているときにもあたる可能性があります。特に階段は注意が必要です。」

「傘を持って階段を上っているときの傘の先を見てみてください。後ろに子どもがいると顔の近くに傘の先がいくことがありますよ。」

(実演できそうであれば実演をするとわかりやすくなります)

(クリック)

イラスト4

「このイラストで、友だち以外の人に迷惑をかけることはありますか。」

「自転車に気づかずに、ぶつかって相手を転倒させてしまうかもしれませんね。」

「もちろん自転車に乗っている人も気をつけなければなりません。」

「このように、歩いているときに、他の人にけがをさせたり、迷惑をかけたたりすることって、結構ありそうですね。」

(クリック)

人にけがをさせない
ためには、
こういうことに
気をつけて
歩くといいでしょいか。



「では、このようなことが起こらないようにするために、何に気をつけて、
どのように行動すればよいでしょうか。」

- ・前を見て歩く
- ・持っているものを振り回さない
- ・何かを持っているときには気をつける
- ・前だけでなく、後ろの人にも気をつける
- ・急に走らない
- ・広がって歩かない
- ・話に夢中にならない
- ・周りのことを考える

「いろいろと気をつけるべきことができてきましたね。」
「全部できそうですか？」

(クリック)

自分がおこしそうなばめんは？

- ①まえから来る人にぶつかる
- ②もっているものをぶつける
- ③

「これまでのことを考えて、あなたが起こしてしまいそうな例はどれです
か。」

「また、どうして起こしてしまいそうなのか、考えましょう。」

(③は実際に授業の流れで、加えるとよい)

「自分がとる行動には、自分の性格も関係してそうですね。」

「その性格をわかったうえで、考えることが大切です。」

(クリック)

とうげこう中、まわりの人に
けがをさせないために
今日から 何に気をつけて
歩きますか？

「では、最後に、登下校中、周りの人にけがをさせないために、今日から実行する行動を考えて書きましょう。」

「今、書いたことを是非、実行してくださいね。」
「明日、そのことができたかどうか、聞かせてもらいますね。」

「では、これで、今日の学習を終わります。」

(クリック)

自転車で加害者にならないために

1. 対象 中学年

2. 教材化の視点

自転車事故における被害者救済の観点から、条例により自転車保険への加入を義務化する動きが広がっています(国土交通省)。子どもの自転車による事故というと、自損事故を思い浮かべる人が多いのではないのでしょうか。しかし、自転車も軽車両であることを忘れてはなりません。子どもでも自転車に乗り、人と衝突すると、多くの場合、加害者になることを知っておかなければなりません。

3. 教科と指導要領との関連

【教科】特別活動(学級活動)

内容(2)ウ心身ともに健康で安全な生活態度の形成

現在及び障害にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

4. 安全教育のねらい

- 自転車の利便性と危険性を理解するとともに、安全に自転車を利用し、他者が利用する自転車とも調和して生活することができる。

5. 安全教育の視点

① 加害者にならないための行動

- ・ 交通安全の基本となる「前を見る」ことの重要性を確認するとともに、スピード過多による危険性や道路交通法違反による危険性、ながら運転の危険性を理解する。

② 自分の行動の振り返り(自分事とする)

- ・ 自転車乗車時のヒヤリハット事例や歩行中に自転車と事故が起こりそうになったヒヤリハット事例を通して自身の行動を振り返るとともに、自転車乗車時の危険性を理解する。

③ これからの行動の意思決定

- ・ 振り返った自分の行動を踏まえ、自分の行動目標を設定し、その後の自身の行動を評価する。

6. 関連情報

自転車は、道路交通法では軽車両に位置付けられており、「車のなかま」です(警察庁)。自転車と歩行者による交通事故は交通事故全体に占める割合でみると、増加傾向にあると警察庁は報告しています。未成年による自転車事故で高額の損害賠償を請求された事案もあります。その中には、小学生による事故も発生しており、神戸地裁の判決では、賠償額 9,521 万円という事故も起こっています。

7. 学習の流れ

	学習活動・児童の反応例	指導上の留意点
導入	<p>1. 自転車とぶつかりそうになった場面を思い出す。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・曲がり角から急に自転車が出てきたとき。 ・歩道を歩いているときに、前から来た自転車とぶつかりそうになりました。 <p>2. 本時のめあてを確認する。</p>	<p>・自転車に乗らない児童に対しては、今後乗る可能性があることをもとに考えさせたり、歩行者としての立場から考えさせたりする。</p>
人にけがをさせないための自転車の乗り方を知り、自分にできることを考えよう		
展開	<p>3. 自転車乗車時に人にけがをさせる場面を想起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スピードを出しすぎているときに操作ミスをしてぶつかってしまいそうです。 ・歩道を走っていてすれ違う時にぶつかってしまうかもしれません。 <p>4. 自転車事故の事例から、加害者になりうることを知り、自身の行動を振り返る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生でも加害者になってしまうことを知って怖くなりました。 ・私も坂道でスピードを出してしまうことがあるので、気を付けなければならないと思いました。 <p>5. 自転車事故防止のために必要な知識を身に付ける。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自転車も車両と同じなので、交通ルールを守らなければならない。 ・自転車の点検も重要だと思います。（「ぶたはしゃべる」） ・自転車保険に入ることやヘルメットの着用なども知っておかなければなりません。 	<p>・自損事故も人にぶつかった際には、相手を傷つけることになり、加害者になりうるという視点を持たせるようにする。</p> <p>・考えさせたい場面については、あらかじめ用意しておく。</p> <p>・小学生が加害者となり、裁判により高額賠償請求された事例等を紹介する。</p> <p>・紹介した事例が他人事とならないよう、自身の行動を振り返らせる。</p> <p>・子どもや高齢者は歩道の自転車通行は可能であるが、歩行者優先であることを確認する。</p> <p>・知識の確認ではあるが、子どもの経験等と結びつけながら、展開するように心がける。</p>
まとめ	<p>6. 人にけがをさせないための自転車の乗り方で、今日から実行する行動を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・帰ったら自転車の点検をします。 ・下り坂でスピードを出しすぎないようにします。 	<p>・無理な意思決定をさせるのではなく、自分ができる行動を考えさせる。</p> <p>・決めたことを記述させ、自分の決めた行動を強く意識づけさせる。</p>

8. 事後の学習

学習後、自転車の走行について歩行者の立場、自転車運転者の立場から、感じたことを共有し、自身の行動を振り返りながら、安全に過ごすための行動を考える。

あんぜんな 自転車の乗り方

道を歩いていて、
自転車とぶつかりそうに
なったことは
ありますか？



「みなさんは、道を歩いているときに、自転車とぶつかりそうになったことはありますか？」

「そのときの様子を教えてください。」

- ・曲がり角から急に自転車が出てきてぶつかりそうになりました。
- ・歩道を歩いているときに、前から来た自転車とぶつかりそうになりました。
- ・雨の日に、さしている傘が自転車に乗っている人にぶつかったことがあります。

「自転車には硬い部分もあるので、ぶつかると危険ですね。」
「では、自分が自転車に乗る側だったら、どんなことに気をつけるといいのでしょうか。」

(クリック)

○人にけがをさせないための
自転車の乗り方を考える

○自分にできることを
見つける



「そこで、今日は、事故に遭わないために、ではなく、自分が人にけがをさせたり、迷惑をかけないための自転車の乗り方を考えましょう。」
「そして、そのために、自分はどうかするのか、という自分にできることを考えてもらいます。」

(クリック)

自転車に
乗っているときに
人にけがをさせるとしたら、
どんなとき?



「はじめに、自転車とぶつかりそうになった場面を思い出し出してもらいました。」

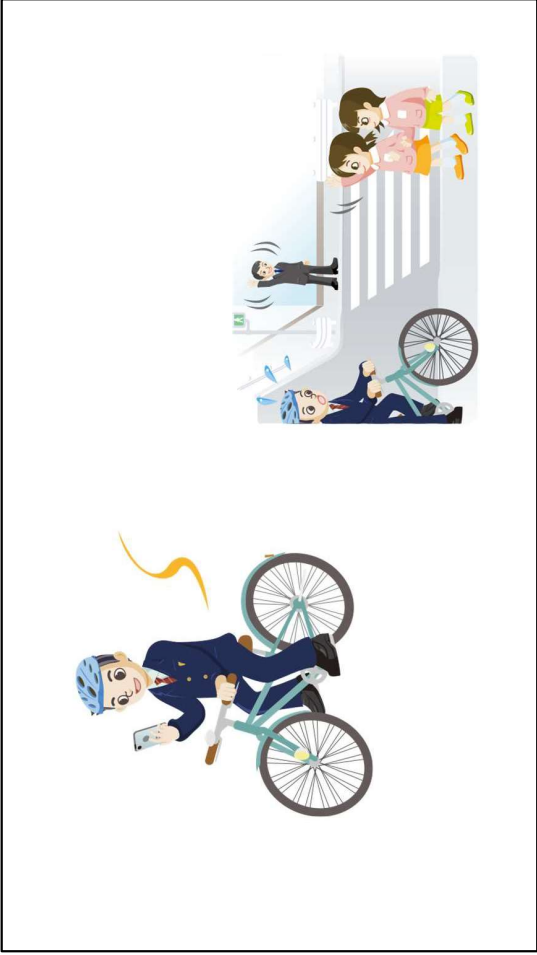
「でも、自分が誰かにけがをさせてしまうかもしれません。」

「自転車に乗っているときに、人にけがをさせるとしたらどのような場面でしょうか。」

(自転車に乗らない人は、歩行者として考えていきます)

- ・スピードを出しすぎているときに操作ミスをしてぶつかってしまいそうです。
- ・歩道を走っていてすれ違う時にぶつかってしまうかもしれません。
- ・よそ見をしていて、人にぶつかってしまうかもしれません。

(クリック)



「いろいろとありそうですね。」

(クリック)

イラスト1

「このイラストの人は少し年齢が上のように見えますが、みなさんでもこのようなことはありますよね。」

「このイラストで、人にけがをさせることはありそうですね。」

「前が見えなくなるのはとても危険ですね。」

「しかも自転車に乗っているのにぶつかっただけには大きな事故に繋がりますからね。」

(クリック)

イラスト2

「このイラストで、人にけがをさせることはありそうですね。」

「小さな子どもの場合、周りを見ていなかったり、急に走り出したりするかもしれません。」

「もちろん大人と一緒にいなければなりません、小さな子どもの近くを通るときは、スピードを落としてゆっくり走らないといけませんね。」

「実際に小学生が自転車に乗っていて、大きな事故になってしまった事故もあるんですよ。」

(クリック)

2008年9月22日 夜7時頃

小学5年生の男子

62歳女性

坂道を下った先で正面衝突

意識戻らず、障害が残る

約9,500万円の賠償金

「その事故は2008年9月22日の夜7時頃、兵庫県で起きました。」

(クリック)

「自転車に乗っていたのは小学5年生の男の子。」

「ライトをつけた自転車に乗って、坂道を下っていました。」

(クリック)

「前には散歩中の62歳の女性がこちらに向かって歩いていました、・・・。」

(クリック)

「そのことには気づかず、正面衝突。」

(クリック)

「62歳の女性は、一命はとりとめたものの、意識は戻らず、体に障害が残ってしまいました。」

(クリック)

「裁判で、治療費や慰謝料、休業損害等9,500万円の賠償金を支払わなければならないことが決まりました。」

「自転車に乗っていた小学5年生が悪かったということです。」

「他にも、スマホを見ながら起こした事故や信号無視による事故など、自転車に乗っている子どもが事故を起こし、誰かを傷つけ、賠償金を支払っている事故があります。」

(クリック)

これらの事故を知って どう思いましたか？



「今、紹介した事故はとても大きな事故です。」

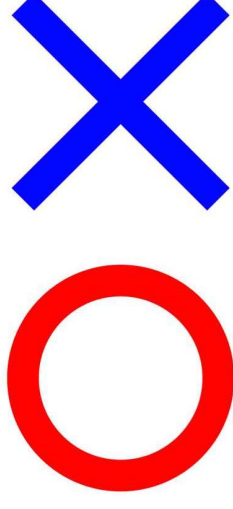
「でも、実際にこのような事故が起こっているんです。このことを知ってどう思いましたか。」

- ・小学生でも大変なことになることを知って少し怖くなりました。
- ・私も坂道を下るときスピードが出すぎてしまうことがあるので、気をつけようと思いました。
- ・ながらスマホもそうですが、やっぱり前をしっかり見ることが大切だと思いました。
- ・事故に遭うことだけではなく、事故を起こすかもしれないことも考えなければならぬと思いました。

「そうですね。事故に遭わないことは大切ですが、事故を起こすかもしれない、ということも考えておかなければなりませんね。」

(クリック)

知っておかなければならないこと 1. 自転車は車と同じ仲間



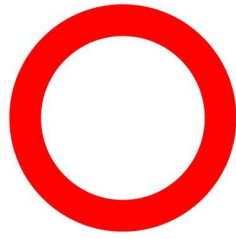
「自転車に乗っていて、事故を起こさないために、知っておかなければならないことがいくつかあります。」

「知っているものはありますか。」

1. 自転車は車と同じ仲間である。○か×か。

(クリック)

1. 自転車は車と同じ仲間



自転車は軽車両です。
原則、車道を走行。
(例外もあります)
自転車専用のルール
やマナーもあります。

「正解は○です。」

「自転車は軽車両です。」

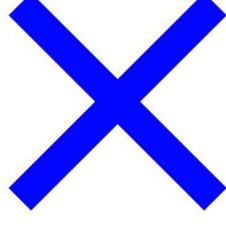
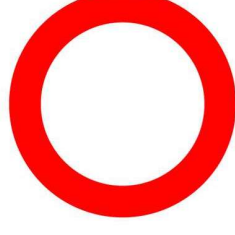
「原則、車道を走行しなければなりません。13歳未満の子どもや70歳以上の高齢者、身体が不自由な方は、歩道の走行が可能です。また、自転車が通行しても良いという標識が歩道にある場合もあります。」

「自転車専用のルールやマナーがあることも知っておきましょう。」

(クリック)

知っておかなければならないこと

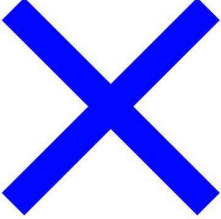
2. 自転車は点検をしないでよい



2. 自転車は点検をしないでよい。○か×か。

(クリック)

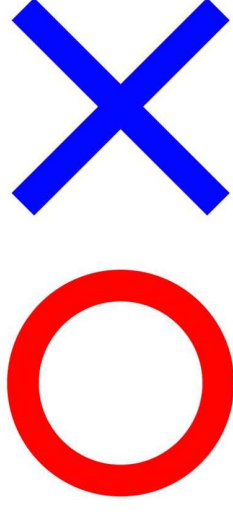
2. 自転車は点検をしなくてよい

 ぶ
た は しや
ブレーキ
タイヤ
ハンドル
車体
ベル

「正解は、×です。」
「自転車自体に問題があり、事故が起こる場合もあります。」
「例えば、ブレーキが故障していると、どうなるでしょうか。」
「人とぶつかろうとしても、止まれなくてぶつかってしましますよね。」
「だから点検が必要なんです。」
「合言葉は『ぶたはしゃべる』です。」
「『ぶ』はブレーキ、『た』はタイヤ、『は』はハンドル、『しゃ』は車体、『べる』はベル、です。」
「自転車に乗る前に、これらを確認してから乗るようにしましょう。」

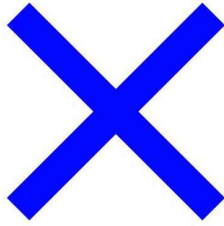
(クリック)

知っておかなければならないこと
3. ヘルメットはかぶらなくてもよい



3. 自転車に乗るときはヘルメットはかぶらなくてもよい。○か×か。
(クリック)

3. ヘルメットはかぶらなくてもよい



2023年4月1日から
法律が変わり、
全ての年齢の人が
着用する努力義務が
定められました。

「正解は、×です。」

「2023年4月1日から法律が変わり、全ての年齢の人が、ヘルメットをかぶらなければならなくなりました。」

「ちなみに、13歳未満の子どもは、法律が変わる前からかぶらなければならなくなっていたんですよ。」

「他にも、自転車保険の加入についても、ほとんどの都道府県で加入が義務付けられています。」

「みなさんは自転車保険に入っているか知っていますか？」

(クリック)

人にけがをさせない
ために、
今日から
実行することを
決めましょう。



「では、人にけがをさせないために、今日から実行することを決めましょう。」

- ・帰ったら、自転車の点検をします
- ・下り坂ではスピードを出しすぎません
- ・よそ見をしないで、しっかり前を見て運転します
- ・交差点で、人の動きをよく見るようにします
- ・人が多い時には、自転車から降りて押して進みます
- ・私は自転車には乗りませんが、自転車の動きをよく見て、ぶつからないようにします
- ・私も乗りませんが、危ないときは止まって、自分からよけるようにします

「今、書いたことを是非、実行してくださいね。」

「来週、そのことができているかどうか、聞かせてもらいますね。」

「では、これで、今日の学習を終わります。」

(クリック)

歩きスマホで加害者にならないために

1. 対象 高学年

2. 教材化の視点

小学6年生のスマートフォン（以下、「スマホ」とする。）の所有率が半数を超えたという報告があります（モバイル社会研究所）。要するに、小学生にもスマホが身近な存在となっているということです。スマホの使用に関する交通安全上の課題として、歩きスマホがあります。歩きながら検索をしたり、コミュニケーションをとったり、ゲームをしたりと、歩きスマホは、いつでも、どこでも目にする行動となりました。今はスマホを所有していない児童もいずれは所有することになるでしょう。すなわち、誰もが歩きスマホをし、前方にいる他者に気づかず衝突し、負傷を負わせるなど、加害者に成り得るということです。だからこそ、その危険性について教材化し、児童が学ぶ機会を設定する必要があります。

3. 教科と指導要領との関連

【教科】体育（保健）

内容（2）ア（ア）交通事故や身の回りの生活の危険が原因となって起こるけがの防止には、周囲の危険に気付くこと、的確な判断の下に安全に行動すること、環境を安全に整えることが必要であること。

4. 安全教育のねらい

- 歩きスマホに伴う危険について理解し、歩きスマホをせずに、安全な歩行をすることができる。

5. 安全教育の視点

① 加害者にならないための行動

- ・ 交通安全の基本となる「前を見る」ことの重要性を確認するとともに、歩きスマホの危険性を理解する。

② 自分の行動の振り返り（自分事とする）

- ・ 歩きスマホ時の視界の狭まりについて、体験を通して理解することで、自身の行動を振り返ったり、今後の自身の行動選択の際の情報にしたりする。

③ これからの行動の意思決定

- ・ 振り返った自分の行動を踏まえ、自分の行動目標を設定し、その後の自身の行動を評価する。

6. 関連情報

ここ5年間、東京都で歩きスマホ等に係る事故で救急搬送された事案が毎年 20 件以上も発生しています。歩きスマホで多い事故は、転倒、衝突、転落です（東京消防庁）。歩きスマホをすることにより、周囲への安全確認が不十分になることや適切な安全確認ができていないということを認識できていないことなども研究結果として報告されています。

7. 学習の流れ

	学習活動・児童の反応例	指導上の留意点
導入	<p>1. 歩きスマホの危険性を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前を見ていないので、人とぶつかってしまう。 ・足元も確認できないので、躓いて転倒してしまう。 ・ホームから転落したというニュースを見ました。 <p>2. 本時のめあてを確認する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・スマホを使用していない児童は、タブレットを使用している場面を想起して考えさせる
歩きスマホをすることで発生させてしまう事故とその対策を考えよう		
展開	<p>3. ペアで歩きスマホ(タブレット)を体験し、お互いの様子を観察する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教室内や廊下など、可能な範囲を歩く。 ・3分程度で交代をする。 <p>4. 体験及び観察して気づいたことを共有し、歩きスマホの危険性に迫る。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・画面を見ながらだと、前が全然見えません。 ・観察していると、歩くスピードがとても遅くなっていることに気がつきました。 ・急いでいるときは、特に気を付けなければならないと思いました。 ・近くに人がいないときにしやすくなったので、そういうときにこそ注意が必要だと思いました。 <p>5. 歩きスマホによる事故事例や実験動画を紹介し、事故防止策を考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人が近くにいるところでの使用は避けようと思います。 ・人が近くにいないところに止まって使わないと周りの人に迷惑をかけることになります。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主観的ではなく、客観的にどのような動きをとっているのかを確認するために、活動はペアで行う。 ・ある程度歩きスマホがしやすくなるためのスペースを確保して体験させる。 ・実際に、歩きスマホをすることで、前方の確認ができないことに気づかせる。 ・自身の転倒、転落事故等は扱わず、加害行為につながる場面を想起させる。 ・自身の行動だけではなく、ペアの行動を観察していて、客観的に見た危険性についても発言させる。 ・体験だけではなく、実際の生活場面での動画を見せることで、より歩きスマホの危険性に迫らせる。 ・統計データを使用することで、歩きスマホによる事故をより身近なこととして捉えさせる。
まとめ	<p>6. 自分の性格を踏まえた事故防止策を考え、これから実行する意思決定を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・触りながらだと移動するスピードが遅いことを知ったので、まずざっと移動してから触るようにする。 ・人が多い所では、触らないようにします。 	<ul style="list-style-type: none"> ・無理な意思決定をさせるのではなく、自分ができる行動を考えさせる。 ・決めたことを記述させ、自分の決めた行動を強く意識づけさせる。

8. 事後の学習

各自が意思決定した行動について、後日振り返りを行うとともに、休み時間や授業中に教室内で、歩きタブレットをしていないか観察し、良い例も悪い例も動画を撮影し、共有しながら振り返る。

歩きスマホの危険性

歩きスマホをしていると
どういう危険性がある
ありますか？



「みなさんは、『歩きスマホ』という言葉聞いたことはありませんか？」

「歩きながら、スマホを操作することを言いますよね。」

「歩きスマホをしているとどういう危険性がありますか？」

(歩きながらタブレットを操作しているのも、同じような状況です)

- ・前を見えていないので、人とぶつかってしまいます。
- ・足元も確認できないので、躓いて転倒してしまいます。
- ・ホームから転落したというニュースを見たことがあります。

「歩きスマホをすることで、様々な危険が迫ってきます。」

「事故に遭うだけではなく、事故を起こす危険性があることも考える必要があり
ますよね。」

(クリック)

- 歩きスマホをすることによって発生してしまう事故を考える
- それらの事故防止のための対策を考える



「そこで、今日は、歩きスマホをすることによって発生させてしまう事故には、どのような事故があるのかを考えます。」
「そして、それらの事故を防ぐための対策についても考えてもらいます。」

(クリック)

ペアで歩きタブレット体験会

3分間の歩きタブレットを実施

Aさん:歩きタブレット
Bさん:Aさんを観察



何でどこをぶつけたか(ぶつかりそう)
どこで何とぶつかったか(ぶつかりそう)

「歩きスマホをすると、前が見えなくなる、と言いますが、実際のところはどのようなのでしょうか。」
「今からタブレットを使って、歩きタブレットで体験してもらいます。」
(ある程度歩き回れるように、スペースを工夫して確保をする)

「2人1組で行います。1人は歩きタブレットをしてください。もう1人は歩きタブレットをしている人の様子を観察してください。」
「歩きタブレットをする人は、歩く場所や歩く速さを意識して変えてみてください。」
「観察する人は、何で、体のどの部位をぶつけたか、ぶつかりそうになっていたら、またどこで、何とぶつかったか、ぶつかりそうになったか、を観察してください。」
(ゲーム性のあるアプリを使用すると、子どもの集中度は高くなり、より危険性を感じることができま)

「それでは、はじめましょう。」(3分間計測)
「では、交替して、次の人が始めましょう。」(3分間計測)

(クリック)

歩きタブレットを 試してみようでしたか？ 観察していて 気づいたことは何ですか？

「では、それぞれの立場から記録をしていきましょう。」

(5分程度)

「では、観察をしていて気づいたことを、ペアの人に伝えてあげましょう。」

「それでは、全体で共有していきます。まずは歩きタブレットを体験してみてくださいでしたか。」

- ・画面を見ながらだと、前が全然見えませんでした。
- ・急いでいるときは、特に気づけなければならぬと思いました。
- ・広い所では、やりやすかったです。

「では、観察をしていて気づいたことはどんなことですか。」

- ・歩くスピードが遅くなっていました。特に狭い所では、ほとんど止まっていた。
- ・狭い所では、机や人に何回も体をぶつけていました。
- ・横から来る人には、気づきにくそうでした。

「やっぱり歩きスマホは危険そうですね。」

(クリック)

歩きスマホの実験動画

「実際に、歩きスマホがどのくらい危険かということを体験した動画があるので、それを見てみましょう。」

「ながらスマホ（歩きスマホ）」の危険性～歩行者編～【JAFユーザーテスト】
([youtube.com](https://www.youtube.com/watch?v=yn-QQvzReIY))
<https://www.youtube.com/watch?v=yn-QQvzReIY>

【激突必至】スクランブル交差点！【ドコモ 歩きスマホ防止CM】
([youtube.com](https://www.youtube.com/watch?v=6Pkzjm75KnU))
<https://www.youtube.com/watch?v=6Pkzjm75KnU>

(必要な箇所を視聴（必要な動画をプレゼン資料に貼り付けて使用）)
(クリック)

ながらスマホによる救急搬送

	操作しながら	画面を見ながら	使用しながら	通話しながら	相手が操作しながら	電話を取ろうとして電話を見ようとして	その他不明	総計
歩きながら	73	54	18	11	5	1	15	177
自転車ですりながら	10	6	2	0	4	7	4	33
その他	0	0	0	1	0	0	0	1
総計	83	60	20	12	9	8	19	211

東京消防庁＜安全・安心＞＜トピックス＞＜歩きスマホが源に係る事故に注意！＞（tokyo.lg.jp）
<https://www.tfd.metro.tokyo.lg.jp/life/topics/201602/mobile.html>

「また、ながらスマホをしていて救急搬送に至った事故について、東京消防庁が平成27年から令和元年の5年間の結果を集計したデータがあります。」

「ここから読み取れることはどんなことですか。」

- ・歩きながらの事故が177件で自転車ですりながらより多い
- ・操作しながらが83件で一番多い
- ・歩きながら、操作しながらが73件で一番多い
- ・やっぱり歩きスマホは危険

「そうですね。やっぱり歩きスマホは危険で、歩きスマホにより、救急搬送されている事故がこれだけ発生していることがわかりますね。」

(クリック)

事故を防止するためにはどうすればよいでしょうか？



「では、歩きスマホにより事故を発生させないためには、どうすればよいのか、考えましょう。」

- ・人が近くにいるところでの使用は避けるとよいと思います。
- ・人が近くにいないところに止まって使うとよいと思います。人が近くにいると邪魔になってしまうからです。
- ・そもそも歩きながら、スマホを触らないようにすればよいと思います。

「そうですね。そもそも歩きスマホをしなければいいんですね。でも、みなさんはそれを守れますか？」

「やってはいけないとわかっているけど、やってしまうことがありますよね。」

(クリック)

自分の性格を踏まえて、 実際に実行できる 事故防止策を 決めましょう。



「では、自分はこういう性格だから、これはちょっとできなさそうだなあ、という対策では意味がありません。最後に、できない対策を考えるのではなく、自分の性格を踏まえて、実際に実行できる事故防止策を決めましょう。」

- ・スマホを触りながらだと移動するのに時間がかかるので、さっと動いてから触るようにします。
- ・人がたくさんいるところでは触らないようにします。
- ・ただでさえ事故が起こりやすい交差点では絶対に触りません。
- ・どうしても触りたくなることがあるので、そのときには、端に寄って、立ち止まって触るようにします。

「今、書いたことを是非、実行してくださいね。」

「来週、そのことができているかどうか、聞かせてもらいますね。」

「では、これで、今日の学習を終わります。」

(クリック)

